

2019/2020 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 世界距離別スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for WSD)
 - ・ 世界オールラウンドスピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for WAR)
 - ・ 世界スプリントスピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for WSP)
 - ・ 四大陸スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for 4CC)
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (~~ワールドカップは別紙参照後述~~)
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長 (強化担当副部長である 1 名) が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 本選考基準において、協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。
- ・ **ワールドカップ第 4 戦以降の国際競技会における派遣選手選考のため、以下の通りワールドカップ競技力を算出する。**

- ① 男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m においては、ワールドカップ第 1~4 戦のそれぞれについて (500m が 2 本ある場合は 1 本ごとに)、種目ごとにデ

ィビジョン A および B の全レースを対象としたタイムランキングを作成する。その後、出場選手ごとに、ワールドカップ第 1～4 戦におけるタイムランキングの順位の中央値を求め（算出方法詳細は下記参照）、これを当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

② 女子 5000m、男子 10000m においては、ワールドカップ第 3 戦におけるディビジョン A および B の全レースを対象としたタイムランキングにおける順位をワールドカップ競技力とする。

③ 男女マスタートにおいては、ワールドカップ第 1～4 戦のポイントランキングの順位の中央値を求め、これを当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

※ それぞれの種目における中央値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、ディビジョン A および B の全レースを対象としたタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m	女子 5000m・ 男子 10000m	男女 マスタート
ワールドカップ第 1～4 戦実施レース数	5	3	3	3	3	1	3
中央値算出使用レース数	3	2	2	2	2	1	2

※使用するデータ数が 1 つの場合はその値を、2 つの場合はその平均値を中央値に替えて採用する。

※例えば、ワールドカップ第 1～4 戦の男子 1000m における各レースのタイムランキングが次のとおりであった場合、中央値は次のとおり算出される。

	WC 第 1 戦	WC 第 2 戦	WC 第 3 戦	WC 第 4 戦	中央値
日本選手①	2	-	1	52	1.5
日本選手②	9	-	6	5	5.5
日本選手③	10	-	7	50	8.5

※ 前述の「追加エントリー」によって補欠起用として出場したレースであっても、当該レースはワールドカップ競技力の算出対象とする。ただし、補欠起用による一時的なレース出場などのように、中央値の算出に使用するレース数（データ数）が必要数を満たさなかった場合、「中央値算出不可能」と解釈されるため、当該選手に対してワールドカップ競技力は付与しない。

※ 本選考基準でのタイムランキング作成においては、100 分の 1 秒までのタイムを適用し、この定義の下に同タイムであった場合は同順位として扱う（100 分の 1 秒表記でのタイムが同タイムであった場合にのみ ISU によって適用される 1000 分の 1 秒の値は本選考基準におけるタイムランキング作成では使用しない）。

※ ワールドカップ競技力が同じ値であった場合、中央値算出に用いたレースにおけるタイムランキングを比較し、より上位のランキングを有する者を優先する。なお、このランキング順位も同じであった場合は、JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である 1 名）の協議により、国際競技会での活躍を

前提とした総合的な検討を加えながら、優先順位を決定する。ただし、この決定は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

1. ワールドカップ第1戦ミンスク大会（11/15～17、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TS）・第2戦トマショフマゾウイエツキ大会（11/22～24、500m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP・TS）・第3戦ヌルスルタン大会（12/6～8、500m・1000m・1500m・女子5000m・男子10000m・TP・TS）・第4戦長野大会（12/13～15、500m・1000m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP・TS）

※ Ms（マススタート）、TP（チームパシュート）、TS（チームスプリント）

※ 男女500mは、第4戦のみそれぞれ2本実施

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会、世界スプリントスピードスケート選手権大会、世界オールラウンドスピードスケート選手権大会及び次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、5000m（5）、10000m（5）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、3000m（5）、5000m（5）、Ms（2）、TP、TS

~~※ ただし、第4戦長野大会は自国開催のためフルエントリー可能となり、男女500m、男女1000m、女子3000m及び男子5000mはそれぞれ5名、Msは2名、TP及びTSは1チームとなる。~~

【選考基準】

対象競技会：第26回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m及び、女子3000m及び男子5000mの出場枠のうちそれぞれ4名、~~男子5000mの出場枠のうち3名~~の派遣選手は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- (2) 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、それぞれ女子3名、~~男子2名~~の派遣選手は、女子3000mまたは男子5000mに選考された最上位者から順に選考する（ここで選考された選手は、女子5000m及び男子10000mの派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する）。続く女子1名、男子1名の派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、女子5000m及び男子10000mにおける最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副

部長である1名)の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。

- (3) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる(この場合の補欠の優先順位は2番目とする)。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者(選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (4) 男女マススタートの正選手各2名(枠順位1及び2番目)と補欠選手各1名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。また、これらの選考は、強化委員会の出席者(選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (5) 男女チームスプリントは、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (6) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第1戦における各種目のエントリー順は、**ISU ワールドカップ参加標準記録(後述)の達成を示すための、エントリー時に所持している記録選考基準の記載順序に従った選考順**によるものとする。
- ・ ワールドカップ第3戦及び第4戦の男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、派遣B標準記録のみ達成して上記(1)により選考された選手が、ワールドカップ第1戦又は第2戦の当該種目においてワールドカップポイントを獲得できなかった場合、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長(強化担当副部長である1名)の協議による必要性の判断に応じて、上記(1)により選考された選手と、上記(1)における次点者(当該派遣選手団外からも可)とで入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ ~~第4戦において、自国開催による枠の拡大によって選考された選手は、派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する。~~
- ・ ~~男女チームパシュート及びチームスプリントのメンバーとなるためには、当該競技会における個人~~

~~種目の正選手または補欠選手である必要がある。~~

- ・ 本競技会（第1～4戦まで）は、当該年度の世界距離別スピードスケート選手権大会、世界スプリントスピードスケート選手権大会及び、世界オールラウンドスピードスケート選手権大会及び**四大**
陸スピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。

2. 四大陸スピードスケート選手権大会（1/31～2/2、アメリカ・ミルウォーキー）

【選考方針】

四大陸スピードスケート選手権大会で日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～4戦までのランキング（SQRL for 4CC）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、Ms（2）、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第87回全日本スピードスケート選手権大会（オールラウンド総合部門、スプリント総合部門、シニア選考部門）

※ 選考は、各種目全レースを対象としたタイムランキングで行う。

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mでの日本が獲得した出場枠数（2019年12月中旬頃にISUから通知される予定）において、3枠のときは2名、2枠のときは1名、1枠のときは1名の派遣選手の選考は、ワールドカップ第4戦終了時における当該種目のワールドカップ競技力が8位以内の場合、このワールドカップ競技力最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、第87回全日本スピードスケート選手権大会におけるタイムランキングの最上位者から順に枠数に至るまで選考する。
- (2) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該年度にワールドカップ代表（個人種目含む）となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、ワールドカップ第1～4戦における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (3) 男女マススタートの派遣選手は、出場枠が1名だった場合、又は出場枠が2名だった場合の1名は、ワールドカップ第4戦終了時におけるワールドカップ競技力の最上位者を選考する。出場枠が2名だった場合、残りの1名は、当該年度にワールドカップ代表となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。ただし、

この残りの1名の選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

- (4) 男女チームスプリントは、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、必要に応じて行うものとする。

3. ワールドカップ第5戦カルガリー大会（2/7～8、カナダ・カルガリー、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m）

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会を見据えて、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。また、次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠の維持・拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、5000m（5）

女子：500m（5）、1000m（5）、1500m（5）、3000m（5）

【選考基準】

対象競技会：第87回全日本スピードスケート選手権大会（オールラウンド総合部門、スプリント総合部門、シニア選考部門）

※ 選考は、各種目全レースを対象としたタイムランキングで行う。

- (1) 各種目におけるそれぞれ4名の派遣選手は、以下の手順で選考する。
 - ① 各種目2名の派遣選手を、ワールドカップ第4戦終了時における当該種目のワールドカップ競技力が8位以内の場合、このワールドカップ競技力最上位者から順に選考する。
 - ② 残りの選手は、第87回全日本スピードスケート選手権大会におけるタイムランキングの最上位者から、上記①で選考された選手を除いて順に枠数に至るまで選考する。
- (2) 残りの選手は、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- (3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

4. 世界距離別スピードスケート選手権大会（2/13～16、アメリカ・ソルトレークシティー）

【選考方針】

世界距離別スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～4戦までのポイントランキング及びタイムランキング（SQRL for WSD）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、10000m（2）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、5000m（2）、Ms（2）、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第87回全日本スピードスケート選手権大会（オールラウンド総合部門、スプリント総合部門、シニア選考部門）

※ 選考は、各種目全レースを対象としたタイムランキングで行う。

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男女5000m、男子10000mでの日本が獲得した出場枠数（2019年12月中旬頃にISUから通知される予定）において、3枠のときは2名、2枠のときは1名、1枠のときは1名の派遣選手の選考は、ワールドカップ第4戦終了時における当該種目のワールドカップ競技力が8位以内の場合、このワールドカップ競技力最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、第87回全日本スピードスケート選手権大会におけるタイムランキングの最上位者から順に枠数に至るまで選考する。
- (2) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、当該年度にワールドカップ代表（個人種目含む）となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、ワールドカップ第1～4戦における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる。ただし、これらの選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (3) 男女マススタートの派遣選手は、出場枠が1名だった場合、又は出場枠が2名だった場合の1名は、ワールドカップ第4戦終了時におけるワールドカップ競技力の最上位者を選考する。出場枠が2名だった場合、残りの1名は、当該年度にワールドカップ代表となった選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。ただし、この残りの1名の選考は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- (4) 男女チームスプリントは、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチの協議により、当該派遣選手団、ワールドカップ第1～4戦、

四大陸選手権大会におけるチームスプリント出場選手又はワールドカップ第5戦における500m、1000m、1500mのいずれかの代表選手の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ SQRL for WSDにおけるリザーブリストの活用による出場枠の再配分がなされた場合、この時点において、出場可能な選手を、移動にかかる時間的な制限（フライト予約等）を含めて総合的な検討を加えながら、選考する。なお、この枠の再配分は、ISUルールに従い、最終、当該種目実施前日のチームリーダーズミーティングにおいてなされ、出場の可否が決定される。
- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びナショナルチームヘッドコーチが、必要に応じて行うものとする。
- ・ 各種目（マススタート、チームパシュート及びチームスプリントを除く）における正選手と他選手（当該派遣選手団における出場可能な選手）との入れ替えは、正選手の成績が著しく低下していた場合、又は他選手において極めて優れた成績が見込めると判断された場合、ワールドカップ第5戦の成績やドクターの意見などを総合的に検討し、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）が、必要に応じて行うものとする。

5. 世界オールラウンド・スプリントスピードスケート選手権大会（2/28～3/1、ノルウェー・ハーマル）

【選考方針】

世界オールラウンドおよびスプリントスピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

オールラウンド：男子1名、女子2名

スプリント：男子2名、女子2名

※ ただし、ワールドカップ第1～4戦の成績により、男女ともに最大3名まで出場枠が増える場合がある。枠の付与は、オールラウンドでは1500mと女子は3000m・男子は5000mのタイムの合計ポイント、スプリントでは500mと1000m（いずれもタイムの良い1本）のタイムの合計ポイントを算出し、それぞれその順位（SQRL for WAR、SQRL for WSP）に基づいて決定される。

【選考基準】

対象競技会：第87回全日本スピードスケート選手権大会（オールラウンド総合部門、スプリント総合部門、シニア選考部門）

※ 選考は、各種目全レースを対象としたタイムランキングで行う。

- (1) それぞれの出場枠のうち1名の派遣選手は、ワールドカップ第1～4戦の成績で決定されるランキングリスト (SQRL for WAR、SQRL for WSP) の最上位者から選考する。
- (2) 残りの派遣選手は、対象競技会における、オールラウンドでは1500mと女子は3000m・男子は5000mのタイムの合計ポイント、スプリントでは500mと1000m (いずれもタイムの良い1本) のタイムの合計ポイントを算出し (ISU ルール第265条3項に従う)、それぞれその最上位者から順に、枠数に至るまで選考する
- (3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

6. ワールドカップ第6戦 (最終戦) ヘレンベーン大会 (3/7～8、オランダ・ヘレンベーン、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・MixG)

※ MixG (ミックスメンジャーリレー) はデモンストレーションイベントとして実施

※ 男女500mはそれぞれ2本実施

【選考方針】

ワールドカップ第6戦で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～5戦までのポイントランキングにより、各種目は以下の通り滑走可能選手数が制限される。

- ・ 500m、1000m、1500m、女子3000m及び男子5000mは最大12名 (24位以内がそれぞれエントリー可能)
- ・ Msは最大18名 (30位以内がエントリー可能)

【選考基準】

- (1) 個人種目の各出場枠の派遣選手は、滑走可能選手数に相当するワールドカップポイントランキング (500m～5000mは12位、Msは18位) 以内の選手を選考する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第5戦終了時に各国のエントリー状況を確認し、エントリー可能範囲内の選手 (500m～1500m、女子3000m及び男子5000mは13～24位、Msは19～30位) を選考する場合がある。

7. 世界大学スピードスケート選手権大会 (3/10～13、オランダ・アムステルダム、500m～10000m・Ms・TP・TS)

【選考方針】

世界大学スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待でき、将来オリンピック等国際大会でメダルが期待できる大学生選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各2名

【枠数】

男子：500m (4)、1000m (4)、1500m (4)、5000m (3)、10000m (3)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (4)、1000m (4)、1500m (4)、3000m (3)、5000m (3)、Ms (2)、TP、TS

※ TSはミックスチームスプリント（異なる性別・国籍でチームを構成）として実施

【選考基準】

対象競技会：第87回全日本スピードスケート選手権大会（オールラウンド総合部門、スプリント総合部門、シニア選考部門）

※ 選考は、各種目全レースを対象としたタイムランキングで行う。

(1) 男女各2名の派遣選手を以下の手順で選考する。

① 各種目の枠数配分

男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mの各種目を通じたワールドカップ競技力における日本選手の順位を比較し、上位の成績を収めた種目から1枠ずつ、派遣可能人数の枠数に達するまで配分する。

※例えば、男子のワールドカップ競技力が次のとおりであった場合、500mに1、1000mに1の枠数が配分される。

500m	1000m	1500m	5000m
(1)	(2)	4.5	5
3	7.5	6	8
10			

② 対象競技会における当該種目のタイムランキングの最上位者から順に、①で設定した各種目の枠数に至るまで選考する。

③ ②までの手順で派遣可能人数（男女各2名）を満たさなかった場合（同一の選手が枠を埋めた場合など）、派遣可能人数に至るまで①による枠数の配分を増やし、②に従って引き続き枠数に至るまで選考する。

(2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 上記(1)①の基準において比較した日本選手の順位が同順位の場合、同順位となった種目に次の枠を与えた場合に②において選考されることになる選手の対象競技会におけるタイムランキングを比較し、上位の者の種目を優先する。なお、この際の順位も同順位であった場合、JOC ナショナルコーチ、スピードスケート強化部長及びスピードスケート強化副部長（強化担当副部長である1名）の協議により、世界大学スピードスケート選手権大会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、優先順位を決定する。ただし、この決定は、強化委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる
- ・ エントリー種目は、選考された選手の特性等を検討し、当該派遣選手団の監督が決定する。

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣標準記録は適用しない。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他		カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他
500m	39,50	40,00	500m	35,70	36,20
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,00	1.12,00
1500m	2.00,50	2.02,00	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.22,00	5000m	6.40,00	6.45,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.33,00 又は 4.14,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.33,00(5000m)

※ 対象競技会は、2018年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本スプリントスピードスケート選手権大会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

【派遣標準記録】

女子			男子		
	A 標準	B 標準		A 標準	B 標準
500m	38,37	39,93	500m	35,04	35,98
1000m	1.16,33	1.19,07	1000m	1.09,54	1.11,65
1500m	1.57,74	2.02,42	1500m	1.46,67	1.50,24
3000m	4.06,85	4.20,18	5000m	6.19,63	6.36,57
5000m	7.10,92	7.26,58 又は 4.20,18(3000m)	10000m	13.13,81	13.36,83 又は 6.36,57(5000m)

※ 対象競技会は、2019年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2017年度及び2018年度WC（カルガリー・ソルトレークシティ、最終戦以外）の各種目8番目のタイムの平均値をA標準、各種目35番目のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2016年度WCヘレンベーン大会、2017年度WCスタヴァンゲル大会及び2018年度トマシヨフマゾウィエツキ大会の各種目8番目のタイムをA標準、各種目26番目のタイムまたは女子3000m、男子5000m各種目B標準の記録を、B標準とした。

※ Msの派遣標準記録は1500m～10000mまでのいずれか1つを対象とする。